

## 受診者数の推移を注視

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会  
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 平成30年2月22日（木） 午後4時10分～午後5時10分
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町  
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町  
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 27人  
〈鳥取県健康会館〉  
魚谷会長、岡田専門委員長  
尾崎・瀬川・田中・富田・長井・西土井・古谷・柳谷・米川各委員  
オブザーバー：森田鳥取市保健師、西村八頭町副主幹  
神谷東部福祉保健事務所保健師  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：高橋室長、米田課長補佐  
山本課長補佐、岡田保健師  
健対協事務局：岩垣係長、神戸主任  
〈鳥取県中部医師会館〉  
秋藤委員・山本各委員  
〈鳥取県西部医師会館〉  
八島部会長、濱本・細田各委員  
オブザーバー：宇佐見米子市保健師、山本大山町保健師

### 【概要】

・平成28年度は受診率30.6%、要精検率9.2%、精検受診率は77.1%、がん発見率0.31%、陽性反応適中度3.3%であった。受診者数（率）は減少傾向。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性

反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

・検診で発見された大腸がん及びがん疑い191例について確定調査を行った結果、確定癌180例であった。そのうち早期がんは108例、早期癌率は60.0%で、平成27年度

に比べ早期がんが増えている。65歳以上の占める割合が平成27年度75%だったのが、平成28年度は84%で高齢者のがんが増えている。40歳代男性からがんが3例発見され、早期がん2例、進行がん1例で、初回直腸2型SS(A)であった。

逐年検診発見進行大腸がんは24例(東部7例、中部2例、西部15例)であった。例年に比べ、件数が非常に増えたこと、特徴としては、上行結腸、盲腸が多かった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

### 挨拶(要旨)

〈魚谷会長〉

皆様には、日頃から健対協事業にご尽力頂き、深謝申しあげる。

各種対策型がん検診事業の中でも、大腸がん検診は費用対効果の面で最も優れていると言われていいる。鳥取県の検診体制においては大きな問題はないようであるが、受診率は30%程度で、更なる向上を行わないと、死亡率減少に繋げることが出来ないという指摘もある。

本日は、平成28年度検診実績報告等が議題に挙がっている。活発なご議論をしていただき、鳥取県の大腸がん検診がより充実していくようお願いする。

〈八島部会長〉

平日のお忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。

本日は、平成28年度検診実績報告等を中心にご協議していただく。大腸がんは死亡数、罹患数ともに第2位で、非常に重要な癌腫である。本県の75歳未満年齢調整死亡率は全国でワースト3位と非常に悪い状況であるので、大腸がん検診によって大腸がんの死亡率を減らすことが重要なことと考える。十分に協議していただき、大腸がん検診

事業が更に充実しますよう、ご協力の程お願いする。

〈岡田委員長〉

会の運営につきましては、八島部会長とご相談して、夏の部会は開催せず、年1回としている。年1回の本日の会議も、テレビ会議とした。会議の持ち方、運営、また、夏部会までに、新たに検討しなければならない事項等があれば、ご意見をいただきますようお願いする。

### 協議事項

#### 1. 平成28年度大腸がん検診実績最終報告並びに29年度実績見込み・30年度計画について(県健康政策課調べ)：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

[平成28年度実績最終報告]

対象者数(40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数)は189,132人で、受診者数は57,917人、受診率は30.6%で、平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向であったが、平成27年度に比べ、受診者数が2,412人、受診率が1.1ポイント減少した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数31,851人、受診率41.5%であった。

要精検者数は5,321人、要精検率9.2%で、平成27年度より0.1ポイント増である。精検受診者は4,102人、精検受診率77.1%で前年度と同率であった。精密検査の結果、大腸がんは177人で、大腸がん疑いは14人であった。がん発見率(がん/受診者数)は0.31%、陽性反応適中度(がん/要精検者数)は3.3%で、平成27年度に比べ、がん発見率は0.03ポイント、陽性反応適中度は0.3ポイン

ト、それぞれ増加した。

要精検率、がん発見率も70歳以上が高い傾向である。要精検率は東部8.8%、中部8.9%、西部9.7%、がん発見率は東部0.270%、中部0.267%、西部0.364%、陽性反応適中度は東部3.1%、中部3.0%、西部3.7%であった。

受診者数（率）は減少傾向。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

[平成29年度実績見込み・平成30年度計画]

平成29年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は58,273人、受診率30.8%で平成28年度より356人増の見込みである。また、平成30年度実施計画は、受診者数59,939人、受診率31.7%を計画している。

〈地域保健・健康増進事業報告より〉厚生労働省ホームページで公開

国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がホームページで公開している項目（検診受診歴（初回・非初回）別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率）について、報告があった。

平成27年度報告の上記項目の集計結果は、検診受診歴別の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度の比較から、初回受診者からより高い傾向があることから、初回受診者の受診勧奨が課題である。

要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていない者の精検未把握率は、国の許容値は10%以下である。鳥取県は8.9%で許容範囲内であった。

また、重篤な偶発症は全国で、精密検査では27件報告されているが、鳥取県においては、偶発例

は報告されていない。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：富田委員

[平成28年度検診実績]

地域検診は21,476人が受診し、そのうち要精検者数は1,595人、要精検率7.43%、精検受診率78.6%であった。大腸がんは45人発見され、そのうち、早期がん27例、進行がん18例で、大腸がん発見率0.21%、陽性反応適中度2.82%で、前年度とほぼ同様な結果であった。

職域検診は21,060人が受診し、そのうち要精検者数は1,089人、要精検率5.17%、精検受診率52.1%であった。大腸がんは8人発見され、そのうち早期がん6例、進行がん2例で、大腸がん発見率0.04%、陽性反応適中度0.73%であった。

初回受診者の結果は、例年と同様な結果であった。

[平成29年度実績見込み(平成29年12月31日現在)]

地域検診の受診者数は18,649人、職域検診は16,841人の見込みである。

要精検率は、地域検診6.67%、職域検診4.67%で前年度よりは減少した。

以上の報告に対し、職域検診において逐年検診受診者のうち、進行がんで発見される人がどの程度あるか教えてほしいとの意見があり、今後確認することとなった。

## 2. 平成28年度発見大腸がん患者確定調査結果について：田中委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い191例について確定調査を行った結果、確定癌180例（地域検診51例、施設検診129例）、腺腫1例、その他10例（他院受診4件、治療拒否2件、化学療法1件（いずれも臨床データが記入されていない）、調査中2件であった。そのうち早期がんは108例、早期癌率は60.0%で、平成27年度に比べ早期がんが増えている。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り60歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多かった。65歳以上の占める割合が平成27年度75%だったのが、平成28年度は84%で高齢者のがんが増えている。40歳代男性からがんが3例発見され、早期がん2例、進行がん1例で、初回直腸2型SS (A) であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が56.6%で、例年に比べ、A、Cが少し多く見つかっている。肉眼分類では「2」29.4%であった。早期癌108例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が56.4%であった。早期癌が多く発見されている。
- (3) 深達度「m」が45.6%で、前年度の36%に比べ、約10%も多くなっている。
- (4) Dukes分類は「A」が60.6%、組織型分類は「Well」が53.3%、「Mod」が36.7%であった。Dukes分類の記入漏れが多かった。
- (5) 治療方法は外科手術が19例(10.6%)、内視鏡下手術82例(45.6%)、内視鏡治療は77例(42.8%)であった。内視鏡下手術の割合が増え、外科手術の割合が年々減少している。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは24例(東部7例、中部2例、西部15例)であった。例年に比べ、件数が非常に増えたこと、特徴としては、上行結腸、盲腸が多かった。

各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

田中委員より、依然として、腺腫のケースを含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出している症例があること。部位、深達度等の記載漏れがあるため、集計する際、不明扱いとなるので、医療機関はご留意頂きたいと話があった。

### 3. 各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について(1月現在集計)

各地区とも、注腸読影会の実績はなかった。

〈東部—尾崎委員〉

大腸がん検診従事者講習会を11月30日開催。

〈中部—山本委員〉

大腸がん検診従事者講習会を2月23日開催予定。

〈西部—細田委員〉

大腸がん検診従事者講習会は7月に境港市で開催。3月27日に西部医師会館で開催予定。

## 4. その他

平成30年度鳥取県新規事業について、高橋県健康政策課がん・生活習慣病対策室長より説明があった。

「脱!がん死亡率ワースト3事業」として、①鳥取のがん医療“見える化”事業、②がん薬物療法専門医、放射線治療専門医の育成支援、③働きざかり世代への胃がん対策が行われる予定である。

オブザーバー参加の市町村保健師さんからは、次のような話があった。

- ・受診者数減少のはっきりした理由はわからないが、市町村では、受診率向上のために、個別通知や協会けんぽと協力して新聞の折り込み広告等を行い、ここ数年は受診率が増加傾向であったが、その効果が頭打ちになったのではないかと感じている。日々の住民との関わりの中で、検診の必要性、意義等を地道に伝えていくことが大事だと思う。
- ・検診の無料化も検討しているところもあった。

## 協議事項

### 1. 平成30年度大腸がん検診従事者講習会について

中部で開催予定、講師の選定等については、秋藤委員と山本委員に一任。

大腸がん検診従事者講習会は夏部会で行うのが通例となっているが、近年、夏部会が開催されないため、冬部会で開催してもらえないかとの意見があり、今後検討することとなった。